

あの震災から3ヶ月が過ぎようとしています。震災直後は今をどうするのかで精一杯でした。明日の事も考えられないような日々が続きました。あの時、被災地にいた人々はどのような体験をしたのか、大切な「記憶」を「記録」しておくことが大切ではないかと思っています。大切な両親や子供たち、兄弟姉妹、友人を失った方々へはどうお言葉をかけていいものか今も悩みますが、少しずつ体験をお聞きしていこうと考えています。

初回は、編集係が平賀徹夫司教様にお尋ねしました。大震災以来、各国教会からの問い合わせに答えたり、訪問客への対応など、大変ご多忙な毎日です。具体的にお話をお聞きしました。

震災ドキュメント：「あのとき、私は」 --- 平賀司教様は ---

私はそのとき、福島発上り新幹線の中でした。奈良に行くためでした。停車した新幹線の中で一晩過ごしました。最初は大変な大地震だと思いましたが、初めに思ったことは、仙台教区の信者さんは大丈夫だろうか、神父さん、シスターたちは大丈夫だろうか、ということでした。心配でした。ですから、まず、人の安否確認から始めました。しかし、電話は通じません。残念ながら、確認は遅々とした歩みでした。それに平行して、教会、修道院、幼稚園、保育園、その他の教会施設の被害状況などを調査しました。

まず、仙台市内は、神父様たちに自転車で回ってもらいました。各教会はそれぞれ壁の亀裂やガラスの割れたことなど被災を受けているとはいえ、全部無事でした。しかし、信者さんたちの安否については、まだ連絡も取れず、困難を極めている状態でした。修道院については、各修道会で取りまとめてもらうようにしました。

第1回目の視察へ

しかし、机にじっと座っているだけでは、気が気ではありません。自分が行っても何かできるわけではないのですが、矢も楯もたまず、3月28日～29日、舟山亭神父とともに、被災地を回ることにいたしました。

<宮城県：気仙沼教会へ>

午後に車で出発し、気仙沼に着きました。気仙沼教会では、主任神父の会津隆司神父様が待っていてくださいました。気仙沼教会の下の南町通りの被害のひどさに驚きました。瓦礫がいっぱいで、車が1台やっと通れるだけでした。



↑気仙沼教会直下の津波被害を見る司教

今回の震災は、青森から、福島にまで被害が及んでいるもので、1泊2日の旅では全部の被災地は回れないのですが、まず、青森の八戸に行き、そこから南下して行こうと考え宿を探したのですが、八戸には営業しているホテルも旅館もなく、結局、一関に泊まることになりました。

<岩手県：久慈教会へ>

翌日、久慈に行きました。久慈教会は大丈夫でした。津波が川を遡り、大きい木を押し上げていました。津波の水の力のすごさを感じた一瞬でした。



←療養中の久慈教会主任司祭を見舞う



国道45号線を南下して行きました。途中の沿岸の小さな町、野田村、小本、岩泉町などの集落が津波にやられ、街並みがこわれていました。田老町は、町が全部なくなり、残されている家も壊れており、自衛隊が働いていました。国道がやっと通れるようになっていました。

これらの町は、これまで何度も通り、見慣れた景色でしたが。これまでは、あそこにあの店があり、こちらにはこの建物があったということを目印にして走っていたのですが、それらが、すべて、まったく何もない！ この光景に、声が出ませんでした。宮古教会に向かう途中に、船が打ち上げられていました。

<宮古教会へ>

宮古教会には、伊藤さんという女性が留守番をしていました。被害状況についての話を聞きましたが、信者さんが被害に遭ったかたがいらっしゃいました。教会そのものは、被害に遭っていませんでした。津軽石湾の脇を通って国道を南下。山田町に入りました。しかし、町の中は通れない状況でした。山側に自動車道があり、そこから南下して行きました。私の見た感じでは、田老町よりも、もっとひどい被災を受けていると感じました。大槌町は、山田町に負けず劣らずの被害で、全部家がなぎ倒されて、壊滅的な町になっていました。

<釜石教会へ>

釜石教会では、信徒会長さんの小野寺さん、副会長の伊瀬さんと話し合うことができました。私たちは持参したガスコンロなどを置いておくことができました。釜石も教会の1階部分まで津波が来て、瓦礫や車が門のところまでできていました。釜石市のさんたんたる状況の中を南下して行きました。



<大船渡教会へ>

気仙沼教会と兼任の大船渡教会の主任司祭・会津隆司神父が、こちらでも待っていてくださいました。大船渡教会、海の星幼稚園も、水、電気、ガスもなく、幼稚園の先生方は、卒園前の準備を日没までにしようと、一生懸命働いておられました。大船渡教会の信徒で被災された山浦玄嗣医師をお見舞いしました。医院では診察を開始され、地元の人から信頼されている様子がうかがわれました。大船渡を出て、陸前高田に近づきました。夕方近くになっていましたが、今回の旅で、いちばんのショックを受けました。これまで、国道沿いに大きな町がありました。それらが、すべて砂漠になっていました。高田松原の松の木も、何もなくなっていました。建物も、道の駅などもすべてなくなっていました。そして、山の方に残骸がたまっていました。町がなくなっていた、砂漠のようになっていたというショックで言葉もなく、もくもくと車を運転し、一関を通過し、仙台に着いたのは午後9時を過ぎていました。こうして、忘れることのできない1泊2日の旅が終わりました。

